

児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和4年3月1日

事業所名 特定非営利活動法人子ども館ゆめのたまご

保護者等数（児童数）12 回収数 12 割合 100%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	10	2		利用者が多い時はどうしているかと思いますが、外遊びも多く、活動も工夫されているので満足です。
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	10	2		・怪我をして帰ってきたので「どちらともいえない」としました。 ・安心して預っていただいています。
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	6	4	2	階段がちよっと危ないかと思ってます。
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画[*1]が作成されているか	11	1		
	5	児童発達支援計画には、児童発達ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	11	1		
	6	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	11	1		
	7	活動プログラム[*2]が固定化しないよう工夫されているか	11	1		
	8	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	8	4		
保護者への 説明等	9	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	12			
	10	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	11	1		
	11	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング[*3]等）が行われているか	11	1		コロナ禍のため、トレーニング等はないのかな。しかし面談含め、常に支援頂いている。
	12	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	12			
	13	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	12			わからないことも全部教えてくれます。こんないいところはない。
	14	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	3	7	2	実際に会うことはないが（コロナ禍）おたよりを通じ、他の保護者のことを感じる事ができた。
	15	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	12			臨機応変に動いて下さり感謝してます。
16	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	12				

	17	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	11	1		
	18	個人情報の取扱いに十分注意されているか	11	1		
非常時等の対応	19	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	12			
	20	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	12			
満足度への説明責任等	21	子どもは通所を楽しみにしているか	12			<ul style="list-style-type: none"> ・家よりも、ようちえんよりも、ゆめたまさんを1番に楽しみにしています。喜んで行っています。 ・毎朝走って通うほど、楽しみにしています。 ・とても！ ・リラックスして過ごすことができているようで、友達との関わりも楽しいようです。 ・いつも楽しく通所します。「保育園に行く人」と聞くと「ハイ」と手をあげています。
	22	事業所の支援に満足しているか	12			<ul style="list-style-type: none"> ・いつも親身になって支援、指導して頂き感謝しています。 ・連絡帳も毎日でいねいを書いて下さるので、子どもの様子や成長がわかるのも嬉しいです。 ・とても ・すべてにおいて大変良くして頂いて大変お世話になってます。 ・いつも親身に対応していただき、感謝しています。 ・大満足。親子共々いつも感謝している。 ・満足ではなく、かなりお世話になっております。私たちのお母さんです。

<保護者の御意見と対応>

1	スペースは十分に確保されている。保護者にその事をもっと周知させる努力が不足しているので、この点を改善する。
2	怪我は不可欠なものなので、“物のとりあい”、“仲よくしたい” 故等、手を出してしまうことがあるので、保護者に誠意を持って理解していただくよう努める。
3	階段には手すり、ストッパーをつけている。何よりスタッフ間の声かけや安全確保の意識が大切なので、常に話しあいをしている。

<一年をふりかえって>

今年度は全員参加の会議ができなかったかわりに、毎月一人一人の支援計画をたて検証し、話しあい、共通認識を深め、とても意義あるものであった。

夏場のRSウイルスと2月の家庭内の発熱があると大事をとって休ませて下さったり・・・ということはあったが、年間通して出席率もよく、子ども達が元気で通所してくれたのがとても良かった。

“食”は大切に与えているので、コロナ禍の中、特に心して免疫力のつく物、バランスの良い献立を立て、“今日も完食”と楽しみにしてくれた。なかなか食べられなかった子どもいろいろな食品を食すようになり、やはり健康には“食”が大切と改めて感じた年になった。

長びくコロナ禍のこの時代、大切な子どもの育ちをできる限りの支援と保育、療育の質の向上に努めたいと心より思った。